



## 令和6年度泉崎村子ども議会を開催

1月23日(木) 村役場議場で令和6年度泉崎村子ども議会を開催しました。

本事業は、未来を担う子どもたちが、泉崎村の身近な地域の問題や将来の村づくり、教育の問題等を質問したり、意見や提言を发表或しする村議会の模擬体験を行うことで、行政や議会の仕組みを学び、村政・議会活動への関心を高めることを目的として開催され、今年で8回目となります。

村内の小中学生12名の子ども議員の皆さんが、一部は小学生、二部は中学生に分かれて、それぞれ村づくりについて質問し、それに対して担当課長らが丁寧に答弁しました。

最後に箭内村長より全体を通して総評がありました。



あきやま みお  
**秋山 心桜 議長(一小)**



きのうち たくま  
**木野内 拓馬 議長(二小)**



おおの ゆめ  
**大野 結夢 議長(中学校)**

もとやなぎ さら  
**本柳 沙愛 議員(一小)**

### 駅伝王者の村泉崎を目指して

泉崎村は、駅伝に力を入れ、毎年、ふくしま駅伝でも上位に入賞しており、私もその大会に出ている先輩方の姿に憧れています。

そこで、村でもマラソン大会やクロスカントリーなどの陸上大会を開催してほしいと思います。そうすれば、小さい頃から大会に参加したいという人が増えたり、走力がついたりするので、村全体が盛り上がり、もっと強い泉崎チームができると思います。さらにいろいろな地域の人たちが大会に参加することで、泉崎村の魅力なども広めることができ、地域の活性化にもつなげることができると思います。

**答** 村では、平成2年から平成11年までの10年間、福島県が主催した「福島県三世代ふれあい健康マラソン」という大会が村を会場として行われ、子どもからお年寄りの方まで18部門に分かれて大会が開かれておりました。多い時には、1,400名が参加するなど大きな大会でしたが、残念ながら第10回で終了となり、それ以降、村が主催する大会は開催されておりません。村を会場としてマラソンやクロスカントリー大会を開催することは、難しいかもしれませんが、村の観光などを多くの方々に向け発信し、地域の活性化につなげられるよう村民の皆さんと共に、取り組んでいきたいと考えております。

また、「ふくしま駅伝」を走る泉崎チームの選手の皆さんは、中学生から社会人の選手など様々で、一年を通して練習に励みトレーニングを行っております。皆さんも目標に向かって練習に励み、大会に参加し、中学生になったら、ふくしま駅伝泉崎チームの選手に選ばれるような一つの目標を持っていただけたらと思います。目標に向かって頑張る皆さんを、これからも村として応援し続けたいと考えております。





### 村の良さを多くの人に伝えるために

総合学習で、私たちが住んでいる村にはたくさんの良き魅力があることを知りました。泉崎横穴や原山古墳、村中に広がる桜、さつき公園やカントリーヴィレッジなど、自慢できるところがたくさんあります。こんなに魅力ある素敵な村の良さがなかなか広まっていないのは、もったいないと思い、どう伝えたら良いのかを考えました。

- ①多くの人が行き来する駅に魅力をPRする看板を作って設置する。
- ②「ふるさとCM大賞」でPRする。
- ③村バスをカーラッピングする。

**答** 1つ目の提案については、現在、駅西口のロータリーと駐輪場との境に、縦横約4メートルの村内案内マップが設置されています。場所の確保が困難なことから、駅構内への設置はされておきませんが、電車内や駅方面から見晴らせる天王台住宅団地西側法面に、村をPRする大型の看板を設置する計画を検討したいと考えております。

2つ目の提案については、令和5年に日本テレビの「笑ってこらえて」の「ダーツの旅」で村を放映していただいた際、もの凄い反響がありました。改めてメディアのPR効果の大きさを感じたところであり、今後「ふるさとCM大賞」も含め、報道関係者を活用したPR活動を図ってまいりたいと考えております。

3つ目の提案については、村外へのバス利用が多いことからPR効果は高いと思われませんが、村のマイクロバス3台は教育委員会で管理しておりますので、担当課と協議のうえ、検討してまいります。

ささき るあ  
佐々木 瑠愛議員(一小)

### 使っていない田んぼの活用方法について

使われていない田んぼの活用方法について提案します。まずは、田んぼアートです。田んぼアートの情報が村外にまで広がれば、観光に訪れる人の増加が期待できます。

次に市民農園としての活用です。使われてない田んぼが増えた要因として、農業の高齢化があげられます。市民農園として田んぼを貸し出し、農業体験を行うことで、幅広い世代の方々に農業の楽しさを伝え、農業の高齢化への対策にもなると思います。

**答** 現在、遊休農地及び、農業の高齢化対策として、村が取り組んでいる重点事業は、基盤整備事業と地域計画事業です。基盤整備事業については、国や県の補助を受け、遊休農地対策と農業の担い手を確保するため圃場の整備を行い、作付けや収穫及び管理の作業効率を上げ、農業生産性の向上を図る事業です。

次に、農地の地域計画については、現在耕作している農地を「将来誰が利用し、地域の農地をどうまとめていくのか」また、「農地を含め、地域農業をどのように維持・発展して行くか」等をそれぞれの地域で話し合い、農地の集約目標や農地の姿が見える「目標地図」を作成し、「地域計画」の策定を行う事業となります。これらをベースとして地域農業者と協議を重ね、地域で使われていない田んぼや畑をどのように活用していくかを確認し、遊休農地対策に取り組んでまいりたいと考えております。



### 安全に遊べる公園について

私たちは、外で遊ぶことが好きで、休み時間はいつも校庭でサッカーをしたり、なわとびをしたりと体を動かしています。放課後も外遊びをしたいのですが、泉崎第二小学区には大きな公園がないので、いつも学校に来て遊んでいます。しかし、校庭の遊具だけでは、いつも物足りなく感じています。サッカーや野球が思い切りできるような広場があればいいと思います。

また、大きなジャングルジムやロッククライミングのような遊具、雨でも遊べるドームのような屋根のついた公園でテニスやバドミントンができれば、小さな子どもからお年寄りまで遊びや

運動を楽しむことができると思います。公園に人が集まれば、地域の人々のつながりが深まるとともに、大人も子どもも健康的な生活ができると思います。

**答** 村内で遊具があり運動ができる公園は、「さつき運動公園」(児童運動広場：平成27年設置)です。以前は、各地区に遊具付きの「農村公園」などが整備されていましたが、利用者の減少や遊具の老朽化により、けがや事故を未然に防ぐために遊具の撤去を進めてまいりました。また、村が管理する公園として、さつき運動公園内に遊具付きの児童公園の整備を行ってきたところです。

児童公園と合わせて、さつき運動公園内にある陸上競技場やテニスコート、農業者トレーニングセンター、ソフトボール場などは予約が入っていないときであれば利用することができますので、ぜひご利用いただきたいと考えております。



## 泉崎村に住むみんなの健康づくりの推進について

- ①「村民運動会」として地区対抗で運動会を実施します。玉入れやダンスなどの幼児から高齢者まで幅広い世代が気軽に参加できるような種目にすれば、皆さんが楽しみながら体を動かすことができ、地域住民の親睦も図ることができます。また、泉崎カントリーヴィレッジの入浴券を付ければ、運動後に心も体もリフレッシュすることが可能です。
- ②「村民みんなで伝統継承」として、泉崎一小の伝統である太鼓と泉崎二小の伝統であるよさこいを、村民の皆さんで楽しむイベントとして実施します。小学生の活気あふれる演技を披露し、高齢の方にも元気を出してもらえないのではないかと考えます。また、小さな子どもから大人まで一緒に体験することで、伝統を感じながら体も動かすことができます。

**答** 1つ目の提案については、村では平成11年まで「村民体育祭」が合計41回開催されてきました。種目も多く、小さなお子さんから、おじいちゃんやおばあちゃんまで参加できるような種目も多くありました。この村民体育祭は、泉崎村の各地区毎に分かれ、支部対抗競技として、紅白玉入れやリレーなどを行い、種目毎に順位を争う競技となっていました。また、開会式では、郡山自衛隊音楽隊の方の先導で入場行進を行うなど、とても賑やかな大運動会でした。

しかし、平成12年以降は、村民体育祭は開催されておられません。時代の変化と共に、年々各地区の参加者が減少していったことも理由の一つと考えられます。現在では、村を挙げての「村民体育祭」は開催されておられません。健康づくりと合わせて、泉崎村を多くの方にPRできるイベントとして、春の桜に染まった村内を歩くウォークラリーで、小さなお子さんから高齢の方まで自由に参加でき、村内外から毎年500名を超える参加者が集まる「桜ウォーク」があります。

2つ目の提案については、村では、9月の敬老の日に合わせて農業者トレーニングセンターで「敬老会」を開催しております。その中で、幼稚園児から中学生の皆さんに敬老会への出演協力をいただき、「和太鼓」や「よさこい」、「リズム」、「器楽部の演奏」などを披露していただいております。

また、第一小学校、第二小学校で毎年行っている「学習発表会」に来ていただいて、皆さんが元気に「和太鼓」や「よさこい」を披露する姿を観ていただくことで、高齢の方に元気を出してもらえないのではないかと考えております。

村としては、まずは高齢の方に「敬老会」、「学習発表会」などに積極的に参加していただき、演技を披露する皆さんから元気をもらうことにより、健康で長生きにつなげていただきたいと考えております。



## 広報いずみざきについて

幅広い世代が目を通し、気軽に読むことができる広報にするにはどうしたらいいか、みんなでアイデアを出し合いました。

- ①ニュースを4コマ漫画などイラストにして、子ども向けバージョンでも紹介します。分かりやすく、楽しく読めるので村の情報がよく分かり、関心も高まると思います。
- ②給食だよりのようなコラムを作り、学校給食の献立を紹介します。給食を話題にして、家族の会話が増えると思います。また、献立のレシピを載せれば、家族で料理を楽しんだり、給食を懐かしみながら食事ができたりするなど、食育にもつながると思います。

**答** 広報紙は、国や県で決まったこと、村で現在取り組んでいることなどを具体的にお知らせし、村の行事や地域の話題などについても、掲載しております。全ての住民の皆さまが、読み手となることを意識し、わかりやすい表現に努め、親しみやすく伝えられるよう、工夫しております。

平成30年度より、子ども向けにも工夫をこらし、調べ学習にも活用できる「いずみちゃんと学ぶ、泉崎のコト」のコーナーを設け、国・県や村の制度などを分かりやすく楽しめるよう、すべての漢字にフリガナを加えるなどしながら連載しております。

また、若い世代の皆さんにも広報誌を読んでもらう工夫として、村のホームページ、スマートフォンアプリのマチイロや村公式LINEなどから簡単に広報いずみざきへアクセスできるようにしております。記事の内容についても、地域の話題を掲載しているマンスリーピックアップや住民交流の場としてのリレートーク、また、親子の料理コーナーのページを設けて、親子アイデアコンクール、今日の朝御飯など、献立や作り方、材料の工夫などを掲載しております。

ニュースを4コマ漫画やイラスト等の掲載の件につきましては、紙面を楽しく読むことができ、村の情報が分かりやすくなり、より多くの皆さんに読んでもらえる利点もある素晴らしいアイデアだと考えております。この4コマ漫画、イラスト等のアイデアにつきましては、他の市町村の取り組み状況などを参考に、紙面を楽しく、情報を分かりやすくする点も踏まえながら、検討していきたいと考えております。

次に、学校で配布される給食だよりにつきましては、子どものいる世帯にしか情報が届いていないことから、全戸配布される広報いずみざきに取り上げることで、学校給食を通じた食育や食文化の情報発信ができる良い機会になると受け止めております。現在、広報誌においても、親子の料理などの連載ページを設けており、食育や家族の絆なども意識したコーナーもございます。そこに学校給食だよりの内容や給食の献立及び話題など、どのような方法で掲載することができるか検討していきたいと考えております。

## 通学用バスについて

現在の泉崎中学校には、遠方から自転車通学している生徒もいれば、家族に送迎をしてもらっている生徒もいます。これは、小学校の児童も同じかと思います。そういった遠方から通う児童・生徒も利用できる、スクールバスを出してもらうことは可能でしょうか。または、村の巡回バスである「ふれあい号」を下校時刻に合わせて、学校近くを通ってもらうことは可能でしょうか。学校の登下校に「ふれあい号」を活用できるのであれば、各家庭の送迎の負担が減る上に、利用する村民の方との交流も深まるのではないかと思います。

**答** 通学用バスにつきましては、国では公立小・中学校の通学距離について、小学校でおおむね4km以内、中学校ではおおむね6km以内というのが国の考え方となっております。村として、徒歩や自転車による通学距離は、小学校で4km以内、中学校で6km以内という基準はおおよその目安として妥当であると考えてきたところです。また、近隣の一部の地域では、学校の統廃合により、遠距離から通学する児童・生徒の通学的手段として、スクールバスの運行を行っている学校もありますが、その他の学校の通学的手段は、徒歩または自転車通学となっております。

次に、登下校時に「ふれあい号」の活用についてですが、現在の「ふれあい号」の運行目的は、車の運転免許を持たない方が、駅や病院、買い物などの目的地に行くための交通手段として運行を行っているところです。村としては、単なる距離や時間だけでなく、安全などの観点、地理的な事情を考慮することも必要と考えますが、バス通学になった場合に歩かなくなることによる体力低下が懸念されることも課題になると考え、現時点では国の通学距離の考え方や、近隣市町村の状況を鑑みスクールバスの運行や「ふれあい号」を利用しての通学はできないと考えております。



## 通学路の街灯について

泉崎村は、全体的に街灯が少ないと感じています。特に最近、暗くなる時間が早くなったことで通学路を自転車で帰るのが危ないと感じることがあります。これは、中学生に限った話ではなく、高校生や電車通勤をされている方など、地域の方々が帰宅した際に同じような危険を感じることでしょう。そのため、村内の街灯の設置場所を増やし、住民の皆さんの安全を守る対策を施していただけないでしょうか。

**答** 本村では、犯罪の未然防止や地域の安全と安心を確保するため、村が設置、管理している防犯灯は、令和6年12月末現在で1,083基となっております。設置に当たっては、各地区からの要望を受け、現地を確認した上で、設置の可否を含め検討し、対応をしています。特に冬は、日が暮れるのも早く、部活や塾、習い事などで帰りが暗く不安に感じていると思われるので、皆さんが「設置が必要だと思う」場所があれば、学校を通して情報提供していただきたいと思っております。

今後におきましても、さらなる地域の安全性を高めるため、防犯灯の増設やLED電灯とカメラが一体となったカメラ付LED防犯灯の設置を、適切な場所の選定をしながら、推進していきたいと考えております。

## プチスクールについて

昨年まで、泉崎村でプチスクールという学習支援が行われていましたが、今年はプチスクールの実施がされませんでした。なぜ、このプチスクールは実施されなくなったのでしょうか。以前私が聞いた意見として、プチスクールを再開して、小学生や中学1・2年生のうちから基礎や応用を学習できるような環境を整えた方が良いという意見をいただいております。

どうか、今後の学習支援の在り方として、検討していただきたいと思っております。

**答** 村では長年にわたり、小学5年・6年生は英語と算数、中学1年から3年生までは英語と数学の学習支援を目的として、令和5年度まで、泉崎村学力向上推進事業として「プチスクール土曜学習会」を開催してまいりました。プチスクールと合わせて、中学3年生を対象に、高校受験に向けた学力を身につけるために、平日の火曜日と木曜日に放課後学習会として英語と数学の学習会を各教科15回ずつ開催してきました。

令和6年度から実施しなくなった理由の一つは、参加者の減少です。理由は様々だと思いますが、村としては、学習会の場所や時間も影響したのではないかと考えました。

例えば、小学生であれば図書館までの送迎、家の方の送迎がないと参加が難しい、中学1・2年生は、土曜日の午前中に学校で部活動を行い、午後から学習会となると体力的、時間的にも難しい状況であったのかもかもしれません。

これらの状況を踏まえ、一人でも多くの児童・生徒の皆さんが参加しやすく、学習に取り組むような村としての支援策はないかと考え、令和6年の新たな取り組みとして、漢検に加え、今までプチスクールに参加しないと受検できなかった、英検・数検を希望者全員が学校にて、無料で受検できるようになりました。令和6年の受検者は431名でプチスクールを開催していた時と比べ、受検者が126名の増加につながったことは、取り組みを行った成果であると考えます。

また、中学生の放課後学習会については、今まで中学3年生だけを対象として学習会を開催してきましたが、令和6年からは1年生と2年生の生徒の皆さんにも参加していただき、基礎学力向上に向けた取り組みの一つとして数学と英語の学習会を、それぞれ4回開催してきましたところ。

今後も、このような取り組みを継続して行いながら、児童・生徒の皆さんの学力向上に向けた取り組みを村として支援していきたいと考えております。



## 筋内村長より全体を通してお話がありました。

### 「駅伝王者の村泉崎を目指して」について

村主催のマラソン大会の開催は、様々な観点から開催は難しいです。一方でクロスカントリーコースを利用したイベントなどについては、今後開催の有無を含めて検討していきます。自身の体力に見合ったトレーニングをされ、今後も様々な大会に参加してください。

### 「村の良さを多くの人に伝える」について

駅に村のPR看板を設置する提案については、現在駅前ロータリー付近に村の案内看板を設置していますが、気づきにくいかもしれません。電車や駅のホームから見えるようにする提案について検討していきたいと思います。

次にメディアを使ったPRについてです。以前村の紹介をテレビ放映された後の村外からの反響が大きかったことも踏まえ、今後検討していきます。

### 「使っていない田んぼの活用方法」について

地域農業を支えていく観点からも大変大きな問題があります。使われていない田んぼを無くすために、現在村で手がけている農業施策（地域計画）と合わせ、市民農園や田んぼアートも地域農業維持の一翼を担う案であると思いますので、検討させていただきます。

また、現在耕作している農地を10年後、15年後に誰が利用し、地域の農業をどのようにまとめていくかをシミュレーションしていきます。

### 「安全に遊べる公園」について

新たに屋根付きの施設整備を行うことについては、難しいですが、既存の学校施設やさつき公園等を活用していただきたいと思います。まだ先になりますが、駅周辺整備に合わせ、皆さんが遊べるような施設整備も計画していきたいと考えています。

### 「泉崎村に住むみんなの健康づくりの推進」について

村では過去に幅広い年齢層の方々が一堂に会し、運動をする機会を設けていました。現在では、桜ウォークなど年齢にとらわれず楽しめるイベントを開催しております。村民の健康づくりの一環として、「和太鼓」や「よさこい」などを披露していただくことが、伝統を継承していくことにつながります。

### 「広報いずみざき」について

今までも様々なご意見をいただきながら現在の様式となった経過がございます。提案のありました4コマ漫画や学校給食の様子を紹介することも広報に興味を持ってもらうきっかけとなると思われますので、今後の参考にしていきたいと思います。

### 「通学用バス」について

現在行っている小学校での集団登下校は、仲間の輪を作るなど社会的秩序の形成に役立っておりますし、自転車通学をしている中学生においては、体力向上も大いに期待されます。今後も交通ルールを守り事故に遭わないように気を付けていただきたいと思います。

### 「通学路の街灯」について

これまでも子ども議会で提案を受け、要望箇所に照明を設置してきました。さらに村では防犯灯として1,083基のLED照明を設置しております。今後も照明が必要と思われる場所を選定していただき、必要に応じてカメラ付きの防犯灯の設置も検討していきます。

### 「プチスクール」について

多くの児童・生徒の皆さんが参加しやすく、学習に取り組めるよう各種検定への助成金を充実させています。

今後も児童生徒に添った支援に努めていきたいと思っておりますので、皆さんも安心できる学習環境作りに協力いただけるようお願いいたします。

### 議会全体を通して

子ども議員の皆さんから質問及び提案をいただきましたが、いずれも的を射た素晴らしい内容でありました。

普段当たり前と思うことについても、見る角度や高さによっては、別なものに見えるということを感じさせられました。また、村の産業復興や農業復興をはじめ、教育分野、防犯分野、福祉分野等幅広い視野で物事を捉えられていることに感心させられました。

今後も何か気づいた点がありましたら、学校を通じてでも構いませんので、情報提供いただければ大変ありがたいです。

**補助金でお得に  
窓のリフォームチャンス!!**

こんなお悩みありませんか?

- 冬場(夏場)は家の中が寒い(暑い)
- 光熱費が高くて大変
- ガラス窓が結露でびしょり...
- 外の音が気になる

株式会社 河島工務店  
〒969-0102  
福島県西白河郡泉崎村関和久字十郎兵衛44  
TEL:0248-53-3328 FAX:0248-53-4212

地元の皆様の「困った」を解決!!  
なんでもお問い合わせてください!

お見積り  
ご相談  
無料!!

代表取締役 河島重昭

印刷のことなら…  
**有限会社 夕サキ印刷**

〒969-0102 泉崎村大字関和久字上野館203  
☎0248-54-1500 FAX 0248-53-2030